第8章 復興支援イベントと災害記録誌の制作

ボランティアをはじめとする多くの人々が復旧・復興を後押しし、支援するイベントが行われた。各地で賑やかな祭りやコンサート、ステージイベントが繰り広げられ、地域住民も片付けなどの手を休めて参加。住民の顔には久しぶりに笑みが浮かび、明日への活力を生み出した。

災害復旧イベントの実施

被災者の生活が少し落ち着きを取り戻すと、被災者からは「応援してくれた人々に元気な姿を見せたい」という声や「地域の祭りを行いたい」という声が出始めた。一方で被災地への継続的な支援活動が続き、チャリティイベントを開く人たちもいた。ここでは、各地で行われたイベントの一部を紹介しよう。

◇笠原地区安全安心復興たすきリレー大会

平成24年10月、地域住民らがたすきをつないでいく「笠原地区安全安心　復興たすきリレー大会」が笠原地区で行われた。

これは「地域の絆」を確かめ合い、安全で安心な笠原を再興しようと、行政区長らによって企画されたもの。小中学生や地域住民、消防団など約220人が災害の爪痕が残る道路を沿道の応援を受けながら、約11キロ先のゴールを目指して「がんばろう笠原」と書かれたたすきをつないでいった。

◇笠原まつり『だってん祭』

平成24年11月、「第27回ことしもやるばい！笠原まつり『だってん祭』」が、黒木町笠原町・えがおの森で開催された。

地域住民には「まつりどころではない」という思いがよぎったが、「この傷ついたまちを見て欲しい」「被災しても希望を捨てていない、いつか立ち上がるという姿も見て欲しい」という思いから開催される運びとなり、子どもたちのダンスやショーが繰り広げられた。

◇もっと輝け！ほしの元気っ祭

平成25年3月、支援してくださった皆さんへ感謝の気持ちと「星野村はがんばっています！」という思いを伝えるため、「もっと輝け！ほしの元気っ祭」が星野村で開催された。

3月10日から17日までを「春の復光支援感謝ウィーク」と名づけ、池の山キャンプ場の麻生池に約1，000本の灯籠を立てた「水上灯籠イベント」などが実施された。

◇八女星のまつり九州和太鼓フェスティバル

「八女星のまつり　九州和太鼓フェスティバル」は、九州の和太鼓が一堂に会して勇壮な和太鼓を競演する賑やかなおまつり。25年11月、星のふるさと公園に、復興への願いを込めて、いつも以上に力強く大きな音が響き渡った。

◇茶のくに八女・奥八女の観光と物産展

平成25年5月、福岡市・福岡市役所前広場で「～元気な八女から感謝をこめて～茶のくに八女・奥八女の観光と物産展」が開かれた。災害の状況やボランティア活動、復旧工事の様子などをパネル展示し、復興した八女市の姿を見てもらった。「第2回八女市ご当地グルメNo.1決定戦」や新茶、地酒、農林産品・特産品の販売も行われ、多くの人出で賑わった。

▲もっと輝け！ほしの元気っ祭

▲笠原地区安全安心復興たすきリレー大会

▲八女星のまつり九州和太鼓フェスティバル

▲笠原まつり『だってん祭』

▲各地で制作された災害記録誌制作

▲災害記録誌制作の様子（黒木町笠原地区）

▲災害記録誌制作の様子（黒木町笠原地区）

災害記録誌の制作

未曽有の大災害となり、市民に自然への畏怖と生活への不安を抱かせた「九州北部豪雨」。辛い出来事は早く忘れ去りたいものだが、これを教訓として災害に対する意識を高め、防ぐ手立てを未来へ継承することもできる。先人たちの知恵として語り継がれてきたものの多くは、台風や豪雨など幾多の災害を経験し、乗り越えてきた先人たちの「災害の記憶」である。

市民は災害当時の記憶をたどり、将来への備えとして「災害記録誌」を自分たちで作成した。

黒木町笠原地区では、子どもから高齢者まで多数の人が集まって「災害についての座談会」を行い、個人の体験談などをまとめた。笠原地区の災害記録誌は、それらから寄せられた住民の生の声を反映させる形で制作された。

立花町山下地区では、災害後1カ月後にとった住民アンケートをもとに、元小学校校長の中村富治さんら5人が2カ月をかけて作成した。記録誌には、1階部分が水没した家屋や孤立した住民の救出、避難所生活などの写真や、ボートで救出されたときの恐怖などを語った住民の声が掲載されている。

このほかに北田形、星野村でも災害記録誌が制作されている。これらの災害記録誌は地域にとって今後の防災の貴重な資料となった。

NHK地域発ドラマ「苦くて、甘い 希望の茶」

NHK福岡放送局が毎年制作している「福岡発地域ドラマ」。その11作目のドラマは、九州北部豪雨を受け、傷ついた星野村が舞台となった。

今回の災害は過疎・高齢化が進む星野村に大きな爪痕を残したが、一方で多くの災害ボランティアが訪れ、地域の高齢者との温かな交流も生まれた。この作品は、ボランティアをきっかけに、地元の方々との交流を通して成長する若者の姿を躍動的に描いたもの。平成25年7月～9月にかけて星野村などで撮影され、地域の明るいニュースとなった。

ドラマのあらすじ

主人公・早川広太（小池徹平）は東京から福岡に転勤してきたばかりの会社員。周囲に溶け込むのが苦手で、見知らぬ土地で一人、満たされない毎日を送っている。ある週末、広太は偶然、星野村での災害ボランティアに参加することになる。ところが村のために献身的に汗を流す人々の中で、広太はボランティアに全く興味が持てない。ベテランボランティアの田村大造（武田鉄矢）や女子大生の武井真由（石橋杏奈）をはじめとする他のボランティアたちとの衝突も絶えなかった。そんな中で出会ったのが、玉露農家の池本敬一郎（蟹江敬三）。今まで何度も日本一に輝いたほどの農家であったが、被災した茶畑を復旧してくれるボランティアの受け入れを頑なに拒んでいた。長年二人三脚でお茶づくりに取り組んできた妻に先立たれ、その直後に豪雨災害にあったため、すっかり心が折れてしまったことが原因だった。玉露の生産への情熱を胸に秘めながらも諦めようとする池本の姿に、仕事で挫折した自分を重ね合わせ、何とか力になりたいと考えはじめた広太であったが…。